

コスモス 4月号

第72巻 第4号

◆宮柽ニカレンダー(61) 四月の歌

寒さ去りて春さだまればみせばやの小さき緑
の芽は土に萌ゆ
歌集『忘瓦亭の歌』

「みせばやの小さき緑の芽」が心を引く。弁慶草という。一連六首のうち五首目、六首目は何と怒りの歌。(プーシキンの生れの国を今の世の北洋漁業にかかはり憎む) (武力を持たぬ小国なれば日本は言はれ放題獲られ放題)

昭和52年4月の作。この時、函館湾に北洋鮭鱒漁の船団を待期させて、日ソ漁業交渉が行われていた。昭和20年8月に占領された北方領土と海。令和6年いま、スーパーでロシア産と称する鮭を買うと、廻り廻ってウクライナ侵攻の戦費になるのかもしれない。
(藤崎絢子)